

# 天神平より ホワイトバレー 菅沼博

谷川岳登頂予定の長谷川、重田の2名を送り出し広すぎる雪洞の中で出発の準備をする。

田尻沢の頭へはつぼ足で登る。昨日と違って今日は天気が良くない。田尻沢の頭でスキーを付け天神平スキー場へ滑り込む。雪が悪く途中へんなこぼれ方をしてしまった。

ゲレンデに着くとすでに今野が登ってきており、メンバー全員がそろった。昨日の回数券が残っているので少し滑ってから出発することにす。

9:30に高倉山リフトに乗り、終点でシールを付ける。9:45広い尾根を出発する。雪が多く高倉山の南側には雪庇がでている。

高倉山でシールをはずし、滑降に移る。少し東へ下り南東に下る尾根に向かう。南東に下る尾根に入る所で雪庇の下を通過しなければならず少し緊張させられた。あとはせまい尾根を適度にコル目指して下る。コルに着いた時はあかり雪になってしまった。

シールを付けて湯蔵山へ向かう。広い尾根だ。2つ目のピークでシールをはずしまた滑降に移る。ここからはワカンの跡があり、それに従って尾根を下る。湯蔵管へ下る尾根を分けると道が広くなり滑りやすそうだが、しかし今日は雪が悪くせつとの思いで滑る。ゲレンデのリフトが見えホッとするが少し登りがあり最後がきつい。

急なゲレンデを下り、谷川温泉で一足おまび帰来。

タイム: 高倉リフト終点 9:45 → 高倉山 10:00 → 鉄塔(コル) 10:25/10:45 → 湯蔵山 11:20 → ゲレンデ上 12:25 → ゲレンデ下 12:50/13:40 → 谷川温泉 14:00

メンバー: 菅沼、針谷、高野、今野

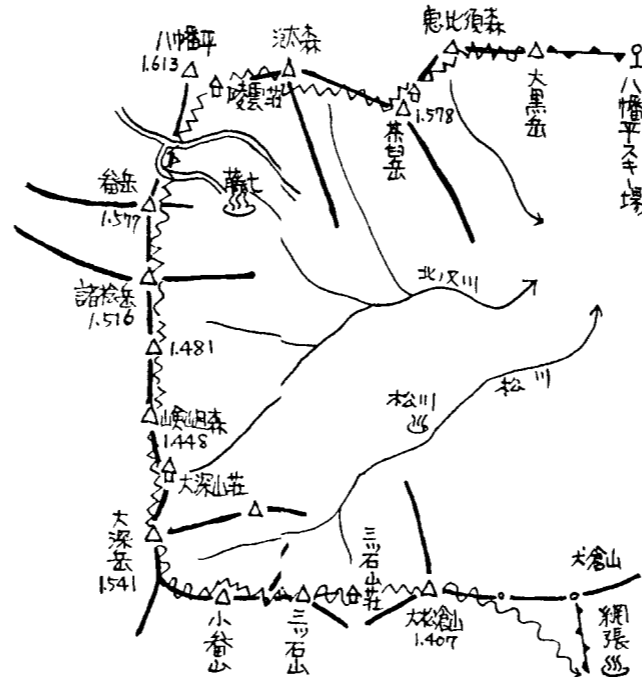
# 4/4-5 裏岩手縦走

菅沼博

2日間とも好天に恵まれる泊4日の予定が1泊2日になってしまった。八幡平スキー場からリフトに乗り大黒森へ登り、そこからはシールを付け陵雲荘まで2時間30分で登る。

翌5日は快晴で順調に倉岳、諸檢岳、嶮岨、森、大深山、ミツ石山を越え無事網張へ下山した。この稜線はたいらで広い所が多くカスの時には充分な注意が必要だ。陵雲荘は大変きれいな山小屋で悪天の時はここで停滞し、天気を見て一気に縦走すると言いうようだ。スキーを楽しむというよりシールで歩く感じで、5分滑り30分登るというパターンで主に行動した。

タイム: 八幡平スキー場 10:45 → 大黒森 11:00 → 陵雲荘 13:30/6:30 → 倉岳肩 7:30 → 諸檢岳 8:10 → 大深山荘 10:15/35 → 大深岳 11:05/15 → ミツ石山 12:55/13:05 → 大松倉山 13:10/15 → 網張温泉 14:40



# 悪雪舟形山

菅沼博

1981年2月14日~15日

2月14日(土)曇り時々晴

仙台駅前からバスで元泉ヒュッテにて下車。除雪された道を少年自然の家まで歩く。除雪はここまででシールを付けて北泉岳へ向かい出発する。

樹林帯を少し登ると雪の広い斜面に出る。木神のところで対岸に移り、斜めに登りながら尾根へ出る。北泉岳へ続く尾根はブッシュが多く滑りにくそうだ。北泉岳からの稜線からは雪が多くなり、雪質も非常に悪く足が極端に疲れる。傾斜が増してくると北泉岳も近い。

大きな指道標のある山頂に出たがカスの為何も見えない。先が長いのでシールをはずして滑り出す。傾斜はないのだがブッシュが多く滑りづらい。地形もゆるやかで複雑でルートさがした苦勞する。滑りおいた所が熊の平だ。この辺りはブナの原生林が続く。少し登った所で今日は行動を終る。

2月15日(日) ガス

少し登ると森林限界となり、昨日溶けた雪が凍ってしまいシールがずり上がりづらい。三峰山の登りは一ヶ所シールでは登れずスキーを引いて登る。小さなコブを越えると蛇ヶ岳三叉路に着く。カスの為何も見えない。

急な荷物も全部持ち舟形山へ向かう。蛇ヶ岳の下りでカモシカに出会う。少し急な登りが終り、登山小屋への分岐をすぎ少し登ると舟形山頂の小屋が大きく見える。東の斜面を横切って山頂に登る。

山頂付近は雲海の上に出ており、まわりの山々が良く見える。残念ながら名前がわからない。後白髪山には時々カスがかかるのが見える。

シールをはずして滑降に移る。シカブツが多く滑りづらいが、あつという向に分岐に下ってしまう。蛇ヶ岳への登り

はシルを付けて登る。三叉路から南へ入り後白髪山へ向かう。途中のキャラXILビークは左側から巻く。急登を終え後白髪山に着いた時はあかりガスになってしまった。すぐに下山に移り、ガスの中の広い尾根をシルを付けたまま下る。高度計と石砦石、地図を頼りに定義への尾根に入る。急降下が終るとブナの樹林帯に出る。そこからは傾斜のゆるい尾根を悪雪とツブに悩まされながら定義へ下る。

**914:** 少年自然の家 8:30 → 水神 9:35 → 北泉ヶ岳 11:30/40 → 熊平 12:35/55 → 1,170m 14:30 (ツブ) 17:00 → 蛇ヶ岳三叉路 8:10/20 → 船形山 9:25/45 → 後白髪山 11:25 → 1,320m 11:45/55 → 林道 13:10/15 → 奥道 14:05 定義如来 14:35

日白山より東谷山・二居へ  
2/28 ~ 3/1 長谷川淳一

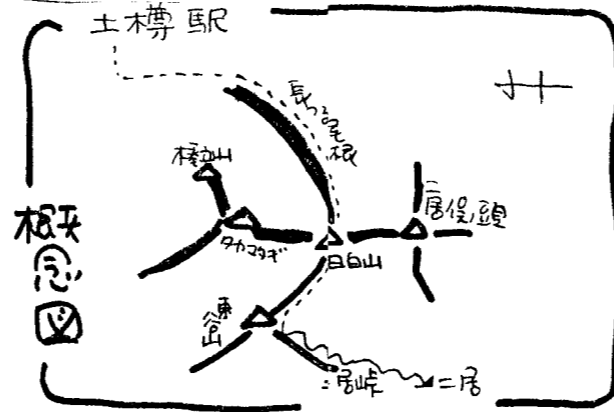
2月28日(土) 曇り時々小雪

前日までの降雪のため、最初から膝までのラッセルとなる。土越特有の重い湿雪で、足が重く感じられる。土樽から長ツル尾根の取付まで、昨年の倍の時間を要した。

長ツル尾根は全体的に幅が狭く、あまりスキー滑降が楽しめそうな感じはしない。途中から小松沢の谷へ滑りこんだ方が良さそうだが、傾斜が段々と急になり、頻りにキックターンを繰り返して登る。深雪と急傾斜のため山向きターンがうまくできず、谷向きターンを多用する。1270mを過ぎるころより、ヤセ尾根となる。下部のトラバースは雪が深くて身動きできず、雪底を気にしながら後線近くを進む。ヤセ尾根が広くなった1400m付近で行動を停止し、尾根の左側に雪洞を掘る。

3月1日(日) 曇り時々小雪 後晴れ向

相変らず深雪のラッセルが続くが、登りもあと少しである。日白山の肩付近は尾根も広くなり、スキーには良さそうな斜面である。肩より頂上まではクラスト気味であったが、左から右へ巻くようにしてスキーを付けたまま横重に登る。頂上からみると、一の肩からの後線を境として、仙倉側はガス、二居側は晴れと、天候がはまり分れていて、東谷山への後線はま、白な雪原となり、歩いて気持ちの良い斜面であったが、途中2つのコブを越えなければならぬので、シルを着けたまま進む。東谷山より1320m付近までは、快適な林道滑降が楽しめた。雪はほど



良く締まっており、傾斜も急である。その先は尾根がヤせてきて、ヤブと雪底の間の幅4~5mほどの斜面を斜滑降と横すべりで下る。この状態が二居峠までずっと続いた。峠からスキー場までの下りは、遠くから見たときには良さそうな斜面にみえたが、太陽に照らされて雪が重くなり、滑りずだった。スキー場に着くとちょうど正午のサイレンが鳴った。

**914:** 土樽 6:50 - 長ツル尾根末端 9:55/10:25 - 1400m地点雪洞 14:35 ~ 7:10 - 日白山 8:50/8:55 - 東谷山 9:55/10:30 - 二居スキー場 12:00  
メンバー: L. 長谷川, 小泉宮, 梅原, 山野辺

高津倉山より石打丸山 菅沼博

1981年3月15日(日) 雨・雪・曇り

越後湯沢駅で仮眠し朝目覚めると雨が降っている。ロープウェイへは早く行って並ぶつもりであったが、雨が降っているのでギリギリまで駅にいる。

8時頃 雨具を着て出発する。待つ間もなくロープウェイが動き出し、湯沢高原スキー場へ登る。ガスで視界が悪く、雨も続いていたので少し様子を見ることにする。

天候は相変らずだが、大峰へと見えなく登ろうというので、パトロールにツアー届を出しシルで登る。少し急だが広い尾根を登る。ガスで良く見えないが左側は少し切れ落ちているようだ。ひと登りで稜線へ出る。ゆるい登りに変わり、大峰山頂に着く。

相変らずのガスだが、コース標がたぐさあり、先行者の327mもあるのシルをはずし、高津倉山へ向かう。一見滑りにくそうな雪質だが割と滑り易い。尾根が急になり少しせまい所が栄太郎峠だ。しきりに雪は降り続けているが、時々ガスがうすくなり少し見渡せるようになる。

シルを付けて高津倉山へ向かう。地図で予想したとおり急な登りだ。キックターンを繰り返して斜登高昇。高津倉山の一角に出ると傾斜もなくなり太陽も射してくる。少し暖かい山頂で大休止をとる。

広い尾根を快適に滑り石打丸へ向かう。今シーズン初めて滑る楽しさを満喫する。途中937mの左を巻き再びシルを付けて石打丸山へ登る。

コブだらけのゲレンデを各自の技術で滑りゲレンデ下にて解散した。

シルを使って登山、比較的楽に滑り時間も適当で初心者の入門コースにうってつけのルートのようなだった。

**914:** 湯沢高原 9:35 → 大峰 10:15/10:30 → 栄太郎峠 11:00/11:25 → 高津倉山 12:10/12:55 → 880m 13:50/14:00 → 石打丸山 14:20/14:45 → ゲレンデ下 15:15/15:40 → 石打馬 15:55  
メンバー: 菅沼, 伊藤(領), 重田, 伊藤(女), 川見, 川口, 安達, 猿田, 阿部 9名